
感謝と尊敬をこのサイトと登録している方々へ

斎藤 君亜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

感謝と尊敬をこのサイトと登録している方々へ

【Nコード】

N6572Y

【作者名】

斎藤 君亜

【あらすじ】

これは私の実体験と共にこのサイトと作者皆様へとサイトの危機に対する私の考えを多少書いた短編です。

いきなり私の身の内話で始めてしまうが申し訳ないと思っている。でも、私がこれを書くに至って、とても必要に思えたから書くだけです。

無視して、下の部分だけ読んでくれれば問題ありません。正直、こんなものを小説として載せること自体、憚れる事かも知れませんが……どうか、読んでいってください。

私は部活の顧問との他愛のないいざこざで、中学最後の大会に出場しなかった。

今となっては、小学校からあの頃までの自分は最も輝いていた。夢を持てた。希望があった。努力をしていた。目標があった。

でも、中学の最後で私はそれらをすべて、自ら放棄した。逃げだしたのだ。

それからは大変だった。部活の友達が減り、私は受験生だというのに墮落した生活を送った。

それでも、多少は部活の友達との繋がりはあった。でも、それは簡単に切れてしまう物だ。でも、私はみつともなくそれにしがみついた。

自分では早く断ち切りたいもののなのに、いざ、自分だけが帰る時になると思った。

（俺は、ここが好きなんだな）
と、

なんともみつともない人間だろう。部活を続けたかった。だけど、自分が悪いのに先生に謝るのがどうしようもなく悔しくて、惨めに思えて、私は部活を行っている場所を見ているしかなかった。そして、しばらくの時間が過ぎた。

部活動入選以外の三年生は全員引退して、二学期最後の日。内申書

が来る日だ。

私は内申書を見て驚いた。成績に別段特筆すべき点があったわけじゃない。

部活動欄に

“卓球部”と記されてあったのだ。

本当にこの時の私は家に帰ってからは惨めだった。

学校では「何で書いてあんだよ、これ」と言いながら笑っていたのに、

家だと、悔しくて、辛くて、悲しかった。それでも、不思議と涙が出なかった。

いや、それより強く感じていた事が「なんで、あのクソ教師、部活蘭のところ消さないんだよっ」という憤りだったせいもあるかもしれないが……。

それからの私はかなり酷かった。成績は落ち、親に塾に行くよう言われ、行くには行ったがずっと前から目標だったK高校に行けなかったのだ。今では私は仲の良かった友達とM高校の通っている。

正直いえば、精神衛生上、比較的楽だったからだ。

少し、関係の無い話が続いてしまいましたが、私は言いたい事がまだ、少しある。

墮落を始めた私は、友達に薦められ、アニメを見てみた。いままで見た事がない。というわけではなかったが、深夜アニメというのは見た事は無かったのだった。

その時はほんの息抜きのつもりだったのだ。

部活も辞め、何もすることの失くした私の、ほんの少しの暇つぶし。そう、思ってたはずだった。

具体名を挙げれば、初めはダ・○ーポだった気がする。それが初めて見た深夜アニメだった。

当時の、今でもそういうところはあるが、私はアニメと言えば卑猥

な表現の多いアニメだと思っていた。

実際そういうシーンも無きにしも非ずだったが、惹かれてしまったのだった。まさか、アニメで泣かされる寸前までいくとは思っていなかった。

段々、のめり込んでいくようになった。

そして、作文の練習に小説を書き始めるようになった。それを友達に見せては感想をもらい、そうしてそれを続けていくうちに知らずにラノベ傾倒していったのかもしれない。

まあ、多少の残念感は拭えないが、そういうのはまってきた。そして、ふと思い出したかのように、私はパソコンと向かい合っていた。

そうして、このサイトを知った。

同時に小説をここまで本気で書いてみたいと思う人がいるのか！と驚愕した。

私は迷わず、登録し、書き始めた。何度も失敗した。何度も諦めかけた。でも、不思議と辞めたくは無かった。私は自ら他人の小説を読んでは感想や意見など書き、知らない間に仲間、と呼べるのだろうか？もできた。

まあ、私の身の上話はここまでとして、本題に移ります。

私はごく最近、TPPのせいでこのサイトが閉鎖されるという事を知りました。

それに関して、私はこの短編を使って皆様に知っていただきたいと思っています。

まあ、多くの人は知っているのですが……それでも、言いたいです。

私は正直、中学まではこういう人たちを少し見下していました。

でも、ここで投稿してから変わりました。

ここは、私にとって大切な場所、私に希望をくれた場所。

だから、私は、ここを封鎖されたくありません。

皆様はどうお考えでしょうか？
できれば、意見が聞きたいと思っています。よろしくお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6572y/>

感謝と尊敬をこのサイトと登録している方々へ

2011年11月20日11時22分発行